

保育内容の領域「人間関係」に関する一考察

—保育所における1歳児の行動観察記録を事例として—

金子 亜 弥

A study on the contents of childcare “Human relationships”

— A case study of behavior observation records of a 1-year-old child at a nursery school —

KANEKO Aya

キーワード：人間関係、保育所保育指針、
保育者養成

1. はじめに

2021（令和3）年度より、新たに4か年計画として「新子育て安心プラン」に基づく取り組みが各自治体でなされている。厚生労働省による令和3年4月1日現在での保育所等関連状況取りまとめのポイントをみると、全体的に保育所等利用定員、保育所等を利用する児童の数は前年比より増加、待機児童数は減少となっている¹⁾。今後もこれまでの実績と女性の就業率の上昇に対応すべく、2024（令和6）年度末までに更に保育の受け皿を拡大する見込みとなっている。減少傾向にあっても、待機児童の問題が解消されたわけではなく、女性の就業率にも関係性があると考えられる。また潜在保育士の就業支援など働き手の確保や保育の質についても、課題とされている。コロナ禍の状況でも保育のニーズは変わらずに高まる中で、保育者と子どもとの関係性の深まりについての変化はあったのだろうか。

家族と過ごす家庭内ではマスクなしの生活、保育所では感染予防から保育者はマスクを着用し、食事と一緒に取らないなど園生活でのあり方も家庭とは異なるようになった。保育者養成校である本学も、実習のあり方について検討された。保育所での保育は、生命の保持と情緒の安定が図られた、安心

感や信頼感の得られる生活でおこなわれなければならない。特に乳児にとっては、保育士との出会いと基本的信頼関係が園生活の第一歩ともいえる。

平成29年告示「保育所保育指針」には、1歳以上3歳未満児と3歳以上児に分けて保育に関わるねらい及び内容が示されている。また、幼稚園、認定こども園同様に幼児教育を行う施設として、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体的な姿に保育士等が指導を行う際の考慮内容が示されている。保育所では、乳児保育を行なううえで、子ども一人一人の発達過程に対応する配慮がなされている。クラスだけでなく園全体で取り組むこともあり、担任や担当の保育士以外にも子どもの成長を支援する保育があたりまえのようになされていることを、筆者も目にしてきた。保護者と離れることに激しい泣き声が聞かれる朝も、次第に落ち着くようになる。保育所が安心した居場所であることをどのように受け止めていくのだろうか。そのためには保育士はどのような役割を果たし、支援をしていったらよいのだろうか。具体的な対応や援助を知ることで、保育のあり方や課題を見出せるのではないかと考えた。

入園後や進級後の新学期のように、一斉に新しい環境をスタートする時期とは異なり、途中入園の場合は、すでに確立されているクラスの子ども達と保育士との関係性の中に、一人ではいっていくことになる。慣らし保育の期間を設けて通常の保育時間になるが、日々の保育活動はこれまで積み上げられ

た園生活の経験や個々の成長をもとに、計画されていることもある。個とクラス全体の成長をみながら寄り添い、保育士とも早く信頼関係が築けることを願うだろう。途中入園児と保育士との関わりについて、保育所での事例をもとに考察する。

2. 研究の目的

保育所保育指針をもとに保育内容の領域「人間関係」について、保育所の特色と共に乳児と保育士の関係性を築く要因を把握し、現場研修や保育実習指導をはじめ保育者養成に活かすことを目的とする。

3. 研究の方法

保育園訪問時に、対象児の行動をビデオ撮影および記録し、保育士より随時口頭にて聞き取りを実施した。

研究協力園：神奈川県川崎市にあるTクラブ認可
保育園Y園

観察記録日：2021年11月

観察対象児：1歳児クラスR児、12月生まれ、姉は4歳児クラス在籍中、コロナ禍や保護者の意向で途中入園してきた。

3-1 Y園について

厚生労働省の統計¹⁾によると、全国的に利用

児童数の増加に伴う利用定員数共に100人以上増加している地方自治体は、2017年から2021年の5年間の推移では、Y園がある川崎市は横浜市に次ぐ利用児童数の増加では毎年第3位以内である。利用定員数の増加では横浜市が2021（令和3）年の第3位を除き毎年1位であったのに対し、川崎市は第8位から徐々に順位を上げて増加し、2021（令和3）年では横浜市に次ぐ第4位である。

表1

利用定員数が100人以上増加した地方自治体

2021（令和3）年

順位	都道府県	市区町村	利用児童増加数
1	埼玉県	さいたま市	3,409
2	北海道	札幌市	1,700
3	神奈川県	横浜市	1,683
4	神奈川県	川崎市	1,639
5	愛知県	名古屋市	1,567
参考 61位	埼玉県	越谷市	267

表2

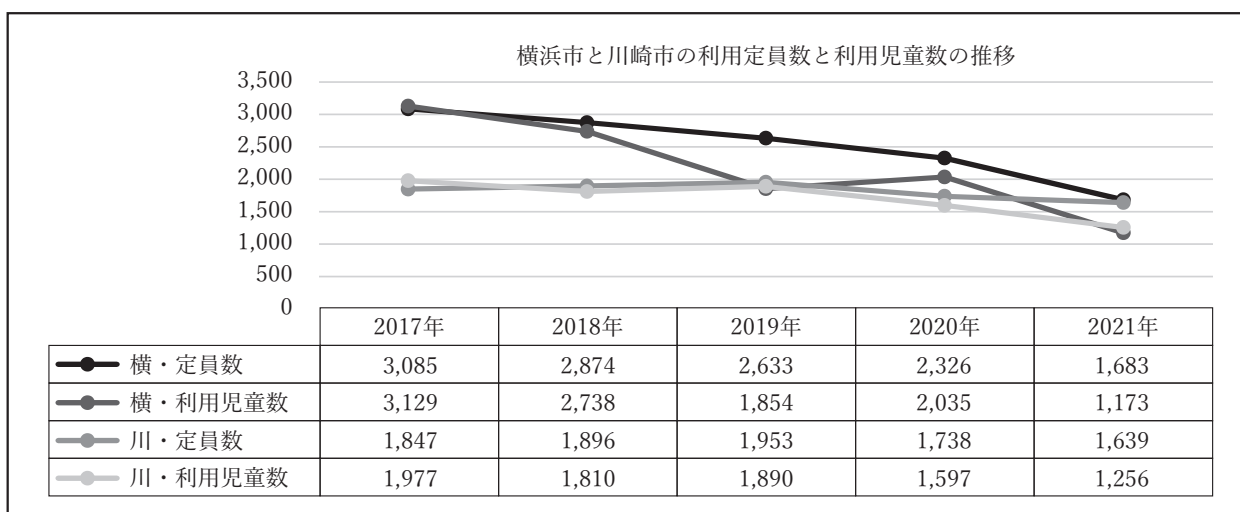
利用児童数が100人以上増加した地方自治体

2021（令和3）年

順位	都道府県	市区町村	利用児童増加数
1	埼玉県	さいたま市	1,858
2	神奈川県	川崎市	1,256
3	神奈川県	横浜市	1,173
4	北海道	札幌市	893
5	東京都	杉並区	709

参考 埼玉県越谷市記載なし

表3



また、2018年から利用児童数より定員数が上回り近年緩やかに減少傾向にあるが、両市を比較すると、横浜市ほど数の開きはなく余裕があるとは言いがたい。将来的にも需要がなくなることは考えにくく、保育の受け皿が十分とも言えない。

今後も子育て世代が住む街とされる川崎市にあるTクラブは、認可保育所を7園運営しており、Y園はその中の1園である。Tクラブの教育理念は、「やらせない、教えない、無理強いしない」を掲げており、挑戦するたくましい心、頭と心と体を鍛える、Tクラブコミュニケーション、を通して、共に育つ環境づくりをしている。Tクラブの理事長は、全てにおいて「楽しく」をモットーとして世界一ワクワクする保育園を目指しているという。朝のマラソンや運動の時間、読み書き計算、読書などの自学自習の時間を通して、IQ（学力）、EQ（心力）、GQ（元気力）のバランスの良い子どもを育てている。職員同士で行われる「ピグマリオンミーティング」では、お互いの長所を素直な気持ちで伝え合うことをしている。お互いを認め、思いやりの心を持ち、いつでも笑顔でいられるような職場環境を心掛けているとのことである。筆者は訪問時に、他の研究者と共に、理事長も交えて体験してきた。簡単なレクリエーションもあり、初対面の方々がいる中で恥ずかしく、それでも最後は笑いに包まれた。急な参加で間違ふことや戸惑うことも承知で、私たちが温かく迎え入れていただいた先生方であった。このような職員の雰囲気からして、Tクラブの「全てにおいて楽しく」の意味が浸透している。

大人も子どもも一緒に楽しむこと、相手を思いやり応援する文化、共に育つ環境づくりを大切に、子どもの自発性を促している。その結果、「やってみよう」という好奇心や「できた」という成功体験を夢につなぎ自信となる力にできる保育を展開しているとのことである。

Y園の特色でもある保育カリキュラムは3つある。運動・自学自習：運動の時間は、体操、逆立ち歩き、跳び箱、マラソンなど体を動かし、挑戦し続けるたくましい心と体を育む。読み書き計算

と読書をする自学自習時間がある。英語：ネイティブ講師とオールイングリッシュで楽しく遊び、五感を刺激するアクティビティを通してナチュラルな発音、会話表現、豊富な語彙力、コミュニケーションを育む。アート・リトミック・知育：季節や行事に沿ったテーマで様々な作品を製作。音を聞き分け、体を動かすリトミックの時間。集中力や知力を働かせる知育の時間、である。乳児クラスから取り組む時間として計画されているが、遊びや散歩中でも「ことば」にして対話を続けている。

表4

デイリープログラム 0, 1, 2歳児

7:00～	通常保育（合同保育）
9:00～9:30	おやつ
9:30～11:00	朝の会・運動・散歩
11:00～12:00	昼食
12:00～12:30	着替え・読み聞かせ
12:30～15:00	午睡
15:00～15:30	おやつ
15:30～16:30	知育・運動・帰りの会
16:30～18:00	自由あそび
18:01～20:00	延長保育

3-2 R児のこと

コロナ禍の影響により、保護者の意向で途中入園となる。慣らし保育のスケジュール通りに保育がなされている。姉の送迎時には保護者と一緒に来ていたものの、1日目より母子分離不安をみせて、泣いて過ごした。保護者によると、食べるのが好きで、園外保育でよく利用する近隣の公園は、遊んだ経験もある場所とのことである。知っている場所があることは、これからの園生活への不安を和らげることができるだろう。また、姉が4歳児クラスにいてもR児にとってはとても心強く頼れる存在であるらしい。様子を見に来てくれることも、互いのクラスを行き来することもある。姉と一緒にいれば泣かず、4歳児クラスに交り椅子を隣に並べて座っていた。クラスの子ども達もR児を受け入れており、保育士間の連携もなされていた。

表5

Y園 慣らし保育スケジュール

1日目	9:00～10:30	午前おやつあり
2日目	9:00～11:00	午前おやつあり
3日目	9:00～11:00	午前おやつあり
4日目	9:00～11:30	保護者の介助で給食を食べて降園
5日目	9:00～11:30	保育者の介助で給食を食べて降園
6日目	9:00～14:00	午睡あり
7日目	9:00～14:00	午睡あり
8日目	9:00～14:00	午睡あり
9日目	9:00～15:30	おやつあり
10日目	可能であれば通常保育開始	

3-3 観察記録からの考察

(1) 登園2日目の記録(表6)

朝から泣いている。クラスで集まり始めていても加わらない。保育室の入口と通路は、扉も兼ねた出入り防止用の柵で仕切られている。保育室の中央には行かずに、柵に手をかけてその場所から離れようとししない。R児の「ママに会いたい」「行く(姉のクラスに行くという意味、1日目に経験している)」に、保育士は頷きで返すなどしている。この日は0歳児と合同でリトミックの時間があった。わずか15分間の記録の中に、R児から自分の気持ちを保育士に伝えているような仕草や、クラスの様子をみている姿が繰り返されている。保育士からは40回以上の関わりが記録された。ことばやボディータッチなどで、気持ちを理解していることを伝えている。

図1は記録開始から泣き続けているR児への関わり開始時間を、表6をもとに下から上への縦軸で示している。これによると、クラスで活動中の時間が一番多く関わりを受けていることがわかる。合同保育の時間や、各クラスが隣接していることもあり、常に誰かがR児を視野に入れて保育ができるという環境要因もあろう。活動に関心が向くように声をかけているとも推測されるが、一人きりにならないように配慮していたのかもしれない。

R児は途中から「ママに会いたい」から「行く(姉がいるクラスに行きたいので、クラスから出た

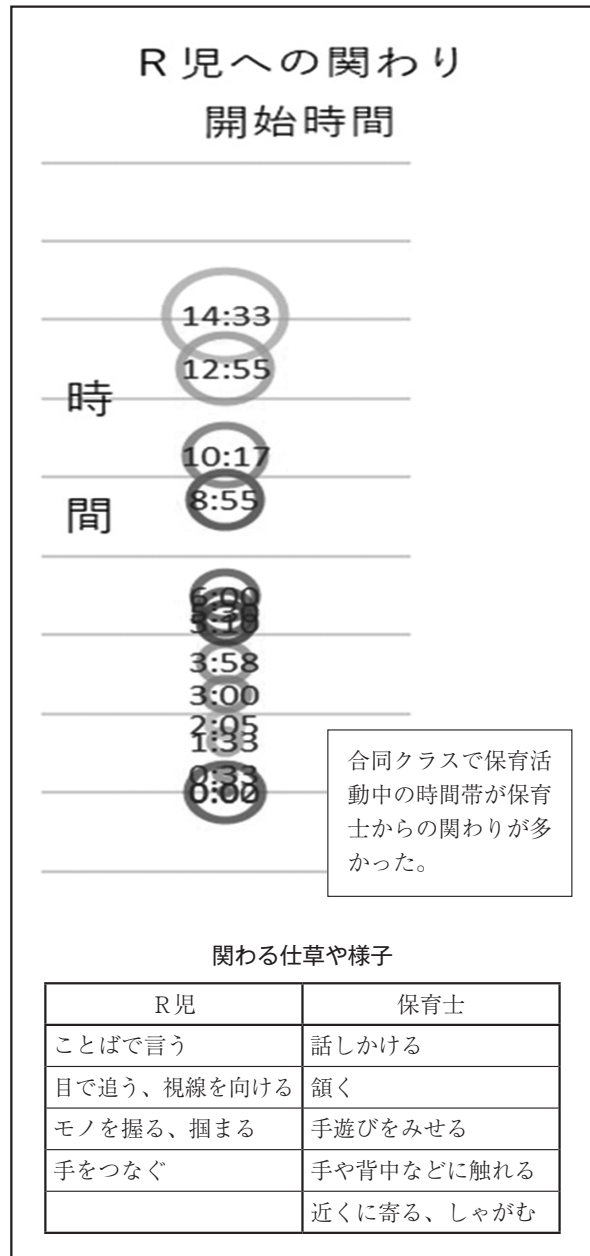


図1

い)」になった。泣きながらも周囲の保育士(大人)に視線を向けていたことは、すでに保育士との関係性ができているのではないかと考えた。なぜなら、単に大人であれば筆者も近くにいたのだが、視線が向けられることはなかったからである。またクラスの主担当保育士や園長には、泣く声や動作の大きさから、自分の要求を強く訴えているように感じた。まだ登園2日目だが、毎日の送迎時に顔を会わす機会があり知っている保育士、自分の要求を満たしてくれた保育士だということが分かったうえでの行動の表れだと考えられる。

表6

時間	R児と保育者との関わり方 登園2日目	保育士
0:00	部屋に入るが、保育室の入口（柵）の方に顔を向けて泣く	
0:02	・保育士Cが声をかけ、背中をさする 顔を合わせて声をかけるが、Rは保育士の顔を見ようとしない	○ ○
0:16	・涙を拭く 「ママに会いたい」と言って泣く	○
0:33	保育士Cが部屋の外に出ようとする、一緒に出ようとするが、柵を閉めてしまうと、柵にしがみつ きながら、泣く ・「今行きたい」「今は行かないんだ」	○
0:47	・保育士Aと保育士Bは様子を見ながらも、朝の集まりをしている ・保育士Bが声をかける ・頭をなでて、集まっている友達の方を指さす	○ ○
0:57	集まっている方を見る	
1:33	・保育士Bが保育士Aがみんなとしているのと同じように、「いないいないばあ」をする ・保育士Dが入室	○
2:00	・保育士Aがみんなに絵本の読み聞かせをしている ・保育士Bが絵本の内容を話して聞かせる 少し目を向けるも、柵の方に向いてしまい泣き続ける	○
2:05	・Rの肩に触れ、再度絵本の方に注意を向かせる 柵を両手で握りしめたまま、顔だけみんなの方に向ける 「今行く、今行く」と言いながら、保育士A、保育士Bを交互に見る	○
2:28	・保育士Bが手を取るが、振り払う	○
2:40	・保育士Bが離れる 保育士Bを目で追う	
2:47	柵の方に顔を向けるが、すぐに集まっているみんなの方を向く	
3:00	・外部講師Eが入室しながら外から声をかけ、頭をなでる ・保育士Aがみんなに朝の会終わりの挨拶をする	○
3:45	・合同保育のため隣のクラスの保育士Fが0歳児を連れて入室しながらRに声をかける 柵の開閉があるが、出ようとしないで泣いている	○
3:58	・保育士Gが0歳児を連れて、「大丈夫だよ」と声をかけながら入室する ・保育士Hが0歳児を連れて入室する	○
4:12	・保育士Iが一人で入室し、柵を閉める 両手で柵を揺すりながら、顔を柵と保育士達の方を交互に向ける	
4:45	・保育士Iがそばにきて声をかける	○
5:00	0歳児が保育士Iの膝に座り、準備の様子を見ている 保育士Iが柵の隣にいるため、Rは柵から少し離れて柵から手も放して、準備の様子を見ている	
5:10	・椅子を片付けにきた保育士二人が声をかける	○
5:13	・保育士Iがみんなの方にと声をかけ、指をさして促した後、離れる みんなの方に顔を向けるも、柵のところに行き手で掴む	○
5:30	・保育士Aが声をかける 「今行きたいの」と応答すると、柵に手をかけて足をばたつかせる	○ ○
5:45	・保育士二人が保育室を出る際に、一人がRの肩に手をあて声をかける	○
6:00	リトミック遊びのはじまり ・活動をみるが、保育士Aの顔を見て、気持ちを訴えている 保育士Aがしゃがむと、Rは泣きながら柵の方を向く ・保育士Aが泣くRに何度か頷きを返す ・「お椅子に座る」「おうちにもあるかな」ときく ・入室してきた保育士が視線を送る (座ろうともしない)「いいよ」と言い、離れる	○ ○ ○ ○

時間	R児と保育者との関わり方 登園2日目	保育士
6:55	柵のところで泣き続けている。	
7:08	・保育士Hが声をかけて、室外に出る 活動を見ながら、柵を掴んで、足をばたつかせる	○
7:24	・保育士二人が声をかけながら室外に出る 室外に出る保育士をみるが、柵がしめられると片手は柵を掴んだまま室内に顔を向ける	○
7:33	廊下を通る保育士を目で追う	
7:52	2歳児クラスのAが柵越しに話しかけたり、柵の上から片手を伸ばして手を振ったりリズム遊びの音楽にあわせて手を動かしたりする RはAのことを見ていたが、伸ばしてきた手には触れない	○
8:10	Aは自分のクラスに戻る 柵越しに廊下を通る保育士や活動の様子を見たりする	
8:55	0歳児BがRに近づき、柵に手をかける様子を見る ・Bの様子を見に来た保育士AがRにも目を配りながら手でリズム打ちをする様子を見せる	○
9:12	Bが活動に戻ると、柵に手をかけて泣く ・Rの近くには保育士Aがいる	○
10:04	Bが再度Rに近づき、RとBは顔を見合わす	
10:10	・Bが離れると保育士AがRに話しかけ続ける	○
10:17	Rは柵に両手をかけたまま、Bとみんなの様子を見続けている ・そばに保育士Aがいる	○
11:00	・園長が入室し、Rの「行く、行く」を聞き、受け止めている Rは差し出された手をつなごうと伸ばすがひっこめてしまい、 両頬をタッチされると後ずさりする	○ ○ ○
11:55	0歳児Cが保育者AとRの間を通り、柵につかまると、Rは自分も柵の傍に行きたいのに行かれない素振りをみせて泣き続ける	
12:18	・園長がCを柵から離すと、すぐにRが柵を掴みに来て揺すったり、顔をみんなに向けたりする	
12:55	・少し離れたところにいる園長が、Rを手招きする Rは顔を向けるが、柵に向かって泣く	○
13:08	2歳児Aが再度Rとクラスの様子を見に来たが、すぐに離れる Rは泣きながらみんなの様子と柵を交互にみたり、柵に足をかけてのぼろうとしたりする	
14:18	園長が来ると近寄り、顔を見て泣き、足をばたつかせる ・園長が頷き返す 活動で使う道具を渡そうとすると手を引っ込めて嫌がる ・道具は使いたくない気持ちを頷きで確認して、道具を引っ込める	○ ○ ○ ○
14:33	・園長と共に保育室を出る ・保育士Aが頭をなでて「いってらっしゃい」と言う 保育室を出ると園長と一瞬手をつなぎ、その後姉がいる保育室へ行く 姉と席を並べて座る。その後姉が保育室に来て遊んでくれる 姉が園外散歩に出かけるまで一緒にいる	○ ○ ○

*右欄は保育士の主な関わりがある個所に○印。

*文中のRはR児の略、また下線は主な関わり方を示す。(表6、表7とも)

(2) 登園8日目の記録(表7)

R児は3日目頃から泣かなくなり、園生活に慣れてきた。観察日は登園が一番遅く、クラスのみんなが集まりはじめている時間に入室してきた。それでも周囲を見回して、手を洗う、という行動を真似していた。すでに椅子に座っている友達を

見て戸惑っている様子だったが、その時も保育士に視線を向けずに、空いている椅子へと促されて座っていた。困っている時に保育士を見ていた2日目とは違う場面であった。また、関わり方も「友達」を見る、見て真似ることがある。ブロックの取り合いもあった。遊び方としてはまだ一

人遊びだが、友達と関わろうとする自発的な行動、保育士は自分の楽しいという気持ちを伝えたい人であることなど、周囲と関わり合いをもってきた

ことがよく表れている。姉のクラスに行きたいとも言わずに、自分のクラスで遊んでいることができた。

表7

時間	保育内容とR児の様子 登園8日目	他児や保育士と関わる場面、R児の気持ちの読み取り
8:55	登園 ・周囲を見て手を洗う。 ・すでに他の友達はクラスで集まっているのをみて、少し躊躇するような姿をみせるも、保育士に促されて空いている椅子に座る。	・他児の様子をみて、自分が何をするのかの再確認。(おやつの前に手を洗う習慣) ・目線はずっとクラスの友達の様子を追っている。保育士からの促しにも自然に応じている。
9:00	集まる	
9:05	おやつ ・保育士を何回も振り返りながら食べる。	・何度も振り返る理由について、Rは食べることが好きなので、その気持ちを伝えている。
9:15	朝の会 知育カード、絵本の読み聞かせ、うた、かず ・前列の椅子に座る。 ・顔を前に向けてカードをよく見ている。	・自分から前列の椅子に座ることで、活動への意欲がある。 <u>積極的参加</u> 。
9:30	ダンス・ミュージカル ・曲に合わせて踊る。 ・歌はうたわれないが、手の振りは真似る。 ・壁に背をつけて、自分のシャツをめくり裾を噛む。	・まだ歌詞は覚えていないかもしれないが、動きを真似ている。 ・興味がない様子で、つまらなそうに見える。
9:45	好きな遊び ・ブロック遊びをする。 ・友達とブロックの取り合いをする。 ・机が積まれている保育室の隅に行き、机と机の間に入る。 ・保育士を背にして遊びはじめる。	・他児の遊びを見ている。 ・保育士に抱っこされる。 ・保育士の側は安定感を感じやすい。
10:30	片付け	
10:40	園外保育に出かける ・天気、色、歌をうたう他、行動をことばにして伝える。	・歩いている間中、保育士がずっと話しかける <u>ことばを聞く</u> 。
10:50	公園着 ・主に一人遊び。何かしゃべりながら砂場遊びをする。カップにすくった砂を入れて「OK」と言う。 ・周囲の子どもが遊んでいる様子を見ている。 ・年長児が縄はしごを上るのを見て、上ろうと片足をかけるが、やめる。砂遊びに戻る。	・保育士が「OK」と言う時がある。 <u>ことばを真似ている</u> 。 ・他児の遊びを見ている。 ・行動を真似ようとする。 ・興味があっても、無理そうだと思うことはしない。
11:20	公園出発 ・公園で何をして遊んだのかの問いかけ、行きとは違う歌をうたう、すれ違う人に挨拶をする。	・園着後、脱いだくつの始末がきちんとできると <u>褒められる</u> 。
11:30	昼食準備	
11:50	昼食	

公園の砂場で一人遊びをする姿、年長児がダイナミックに遊ぶ様子をみている姿、すべてを真似しないで自分でできることだけを真似ようとする慎重さがある。クラスの数人が保育士と坂のある場所で、声を出して走りながら上り下りを楽しんでいたが、R児は砂場にいて加わらなかった。しかしその後、自分で坂のある場所へ行き、同じように上り下りしていたのである。園の特色でもある知育カードを、よく見入っていた。まだ覚えていない「ことば」があるなかでの応答を10分間集中し続けていたほどだ。

4. 領域「人間関係」の視点と考察

保育所保育指針²⁾に示されている、1歳以上3歳未満児の保育に関わる内容の領域「人間関係」の視点からY園でのR児の事例から考察する。

1) (イ) 内容「①保育士等や周囲の子ども等との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる。」

保育士との愛着や基本的信頼感の形成をもとに、周囲と関わるができるようになってきた場面がある。保育室を出たがり、入口の側を離れなかった時から比べると、クラスでの活動に参加できるようになったこと、頬を触られることや手を繋ぐことに抵抗していたが、抱っこされても嫌がないことである。一緒に向き合わずに背中合わせでも、保育士の側にいることの安心感があるのではないだろうか。保育士も温かく見守ることができる距離の近さがある。クラスを自分の居場所として心地よく過ごしていると考えられる。

2) (イ) 内容「②保育士等の受容的・応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定した安定感をもって過ごす。」

途中入園となったR児は、泣く子が多い新学期とは違い、クラスの子どもたちがそれぞれ好きな遊びをしている中で、一人泣いているという状況である。登園2日目の記録では、R児は泣くこ

とで気持ちを伝え、保育士は母親と離れることへの不安を受け止めながら(受容)、早い時には2秒、最長でも90秒で関わっていた(応答)。この日は姉のクラスに行きたがったため、園長が連れて行った。臨機応変にクラス間の連携を図り、対応することが必要となる場面であった。

Y園では日常的にことばを大切にし、理事長が例える「ことばのシャワー」を意識した取り組みがなされている。人間関係の視点から、知育カードも視覚・聴覚・言語とことばを介して受容的かつ応答的な関わり方である。

3) (イ) 内容「③身の回りに様々な人がいることに気づき、徐々に他の子どもと関わりをもつて遊ぶ。」

同じフロアにいる他クラスの子ども達や保育士、散歩途中に出会う街の人々も含めて、たくさんの人達がいることは気付いているようだ。ブロックや砂場遊びを観察していても、まだ一人遊びが多いが、友達を「みる」ことをしているため、これから関わりはじめていくと考えられる。姉のクラスでは、姉や周囲の子ども達優しく接していた。今では自分のクラスで遊べるようになったことや、進んで前列の椅子に座りに行くなどの積極性があるため、自分から友達に関わっていく力があると考えられる。

4) (イ) 内容「④保育士等の仲立ちにより、他の子どもとの関わり方を少しずつ身につける。」

ブロックを取り合う場面があり、すぐに保育士が対応していた。我を通すようなことはなく素直に応じ、その後何事もなかったかのように遊びはじめていた。子ども同士が面と向かい合っていないくても、保育士が他の子どもに関わっている姿をみて、同じように接する場面などがあればよかったが、残念ながら今回は記録できなかった。

5) (イ) 内容「⑤保育所の生活の仕方に慣れ、きまりがあることや、その大切さに気付く。」

Y園はデイリープログラムに沿い、保育活動が

なされている。生活・衛生面では、おやつ前の手洗いや、散歩後の運動靴や靴下の始末など、言われなくてもできることと、言われて気付いてできることがあった。特に昨今は、手洗いの重視などは、家庭でも徹底し、その重要さは理解していると感じる。園生活の流れを知ることは、子どもにとって見通しがわかり安心して過ごせることだろう。R児が泣かなくなったのは、体験的に居場所として安心できたことによると考えている。

6) (イ) 内容「⑥生活や遊びの中で、年長児や保育士等の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする。」

園外保育で公園に行った時に、年長児の遊び方を真似しようとしていた。また保育士が言う言葉を口にしながら遊んでいる場面もあった。園生活に慣れてきて、R児の活動範囲や自ら関わり合う人達が増え、憧れのある年長児や信頼する保育士の言動を真似ることや、一緒にごっこ遊びを楽しむようになることは、周囲への好奇心や探求心も含めてこれからも十分にあり得ると考える。

5. まとめ

Y園の保育士は、子どもへの反応の早さがあり、常に誰かが話しかけている。無理強いしない、できる範囲内のことはやる、保育者と連携した取り組み、クラスの枠を超えて全職員で子どもを見ることを実践している。

園長は当初から、「R児はしっかりしている子なので、すぐに慣れて泣かなくなるだろう」と筆者に話していた。子どもを理解することについて、上村³⁾は、ただ多角的に子どもをみるだけではなく、保育者の経験に基づく「実践コミュニティ要因」が背景にあることを指摘している。はじめて出会う場において、まだ関係性がままだにもかかわらず、子どもをみる確かな目をもつ保育者がいることが、人間関係の構築の基盤になると考えられる。

厚生労働省の「子どもを中心に保育の実践を考

える～保育所保育指針に基づく保育の質向上に向けた実践事例集～」には、職場の風土づくりとして、日々の対話的な関係を大切にして協働的な場とすることや、それぞれの立場にある保育士の良さを引き出せるような事例が示されている。本学の学生も保育実習や就職活動でも、職場の人間関係が心配であるとも言う。保育場面の振り返りをもとに保育士同士の対話から職場の雰囲気をよくすることは、保育の質につながるという。特に互いの意見や思いを肯定的に受け止める意識を普段から心掛けることが記載されている。一人の子どもの育ちを支えていくための取り組みが、結果的に職員間の対話となっているという。職員同士の関係性が保育にも影響するとも考えられる。

Y園は特に園内研修や独自の保育教材が担っている部分もある。乳児クラスから、保育教材として知育の要素を取り入れたカードを使用していることは、導入の賛否があるかもしれない。しかし、子ども達は聞く姿勢ができていて、楽しそうであることから、知育教材も環境的な要因として特色ある園として地域に受け入れられているのである。知育教材を通して理事長の言う「ことばのシャワー」がどのくらい人間関係への影響を与えているのかについては至っておらずに課題が残る。ことばと人間関係についてもその要因を見出すべく検討していかなければならない。

倫理的配慮

本研究における目的と方法、個人情報の扱いについて口頭と書面で説明し、同意を得ている。

謝辞

本研究にご協力いただきましたY園の皆様へ深く感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 保育所等関連状況取りまとめ（令和3年4月1日）及び「子育て安心プラン」「新子育て安心プラン」集計結果，厚生労働省（～平成29年4月1日までの統計を一部抜粋）

- 2) 厚生労働省「保育所保育指針」(2019年3月31日告示)
- 3) 上村晶「保育者と子どもの関係構築プロセスの変容と要因(3)」梅花学園大学, 日本保育学会第73回大会, 2020年

参考文献

- 1) 厚生労働省, 前掲
- 2) 厚生労働省 編『保育所保育指針解説 平成30年3月』フレーベル館, 2019年
- 3) 「子どもを中心に保育の実践を考える～保育所保育指針に基づく保育の質向上に向けた実践事例集～」2019(令和元)年6月 厚生労働省
- 4) 三山岳・五十嵐元子「日常の保育カンファレンスにみられる学びの構造」, 保育学研究第58巻第2・3号合併号, 2020年
- 5) 渡邊真帆「登園後の身支度場面において保育室の物的環境は子どもにどのような行為を促すのか—アフォーダンスの視点からの検討」, 保育学研究第98巻第1号, 2021年
- 6) 田宮縁『体験する・調べる・考える 領域人間関係』, 萌文書林, 2021年
- 7) 柏木恵子『新装版 子どもの「自己」の発達』, 東京大学出版会, 2015年

金子亜弥 (埼玉東萌短期大学専任講師)

参考資料：厚生労働省「保育所等関連状況取りまとめ及び「子育て安心プラン」新子育て安心プラン」集計結果より一部抜粋

利用定員数が100人以上増加した地方自治体

順位	2020（令和2）年			2019（平成31）年			2018（平成30）年			2017（平成29）年		
	都道府県	市区町村	利用児童増加数	都道府県	市区町村	利用児童増加数	都道府県	市区町村	利用児童増加数	都道府県	市区町村	利用児童増加数
1	埼玉県	さいたま市	3,409	神奈川県	横浜市	2,326	神奈川県	横浜市	2,633	神奈川県	横浜市	2,874
2	北海道	札幌市	1,700	神奈川県	川崎市	1,738	大阪府	大阪市	2,329	大阪府	大阪市	2,871
3	神奈川県	横浜市	1,683	愛知県	名古屋市	1,727	愛知県	名古屋市	2,034	福岡県	福岡市	2,482
4	神奈川県	川崎市	1,639	東京都	足立区	1,617	神奈川県	川崎市	1,953	愛知県	名古屋市	2,032
5	愛知県	名古屋市	1,567	福岡県	福岡市	1,533	福岡県	福岡市	1,797	埼玉県	さいたま市	1,934
参考順位	61位埼玉県	越谷市	267	10位埼玉県	さいたま市	1,318	142位埼玉県	越谷市	179	6位神奈川県	川崎市	1,896
				125位埼玉県	越谷市	183				8位神奈川県	川崎市	1,847

利用児童数が100人以上増加した地方自治体

順位	2020（令和2）年			2019（平成31）年			2018（平成30）年			2017（平成29）年		
	都道府県	市区町村	利用児童増加数	都道府県	市区町村	利用児童増加数	都道府県	市区町村	利用児童増加数	都道府県	市区町村	利用児童増加数
1	埼玉県	さいたま市	1,858	神奈川県	横浜市	2,035	神奈川県	横浜市	1,890	神奈川県	横浜市	2,738
2	神奈川県	川崎市	1,256	神奈川県	川崎市	1,597	神奈川県	横浜市	1,854	埼玉県	さいたま市	2,057
3	神奈川県	横浜市	1,173	大阪府	大阪市	1,498	大阪府	大阪市	1,533	神奈川県	川崎市	1,810
4	北海道	札幌市	893	埼玉県	さいたま市	1,283	愛知県	名古屋市	1,508	宮城県	仙台市	1,555
5	東京都	杉並区	709	東京都	杉並区	1,158	埼玉県	さいたま市	1,404	愛知県	名古屋市	1,417
参考順位	越谷市なし			50位埼玉県	越谷市	325	113位埼玉県	越谷市	161	66位埼玉県	越谷市	337
										62位埼玉県	越谷市	334